

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

小学校学習指導要領解説の中で、PISA調査などから見られる我が国の児童生徒の課題の一つとして、「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られる」ことが挙げられている。算数科に関していえば、計算の意味が十分理解されていないことや、学んだことを生活や他の学習に活用することが十分でないといった課題が見られる。このような課題を受けて示された小学校学習指導要領の算数科改訂の基本方針の中で、「根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考える」「言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決する」「自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする」ことの指導を充実させるという具体的な方針が示された。それを受け、本研究では、式や図などを用いて考えたり説明し合ったりする活動を通して、問題を追究することの楽しさを味わわせると共に、一人一人を確実に「わかった」状態に到達させていきたいと考えた。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の教育目標は、「学びへの意欲を持ち、やさしさとたくましさをあわせもった須江小っ子の育成」である。本研究主題の『『わかった』を自らの力でつくり上げる児童』は、主体的に学習に取り組む児童の姿を目指しているものであり、教育目標にある「学びへの意欲を持つ」ことの具現化につながる。また、本研究では児童同士による学び合いや、つまづきを認め合うことも重視しており、これは教育目標の「やさしさ」に結び付くと考えられる。よって、本研究主題に示す児童を育成することは、教育目標の具現化を図るものであると考える。

(3) 児童の実態、これまでの研究から

本校では、平成25年度から算数科の研究に取り組んできた。取組を通して「図、式、言葉などを用いて自分の考えを表現できるようになった」「話合いに意欲的に取り組めるようになった」など様々な成果が見られた。その一方で、「基礎的な内容の定着が不十分である」「上位の児童と下位の児童の差が大きい」といった課題も見られた。そこで、見通しを工夫し、既習事項をうまく活用することで一人一人が課題解決に取り組む授業づくり、考えることの楽しさを味わわせながら、すべての児童が「わかった」と実感できるような授業づくりを行っていくことで、児童一人一人の力を高めていきたいと考え、実践を積み重ねた。その成果として既習事項を振り返り、問題を丁寧に扱うことで解決の見通しをもって課題解決に取り組むことができるようになってきた。また、友達が述べた発表の続きを別の児童が発表するリレー形式の発表方法を展開することで、解決方法を全員で考えさせたり、多くの児童に発表の機会を与えたりすることができた。しかし、意識調査の結果を見ると、「友達の考えを聞くのが好き」という問いに対して「当てはまる」と答えている児童に比べ、「自分の考えを説明することができる」という問いに対して「当てはまる」と答えた児童は少ない。自分から主体的に学ぶことを苦手としていると思われる

る。また、CDT（平成29年1月31日実施）では、どの観点も全国平均を下回る結果となり、特に数学的な考え方が全国平均よりも低い学年が多いという結果となった。

以上より、今年度も継続して、問題解決学習を通して「分かって楽しい」「考えて楽しい」と感じながら、学習したことを確実に自分自身のものとしていける児童を育成したいと考える。